

岩手県感染症週報

平成23年第34週（8月22日～8月28日）

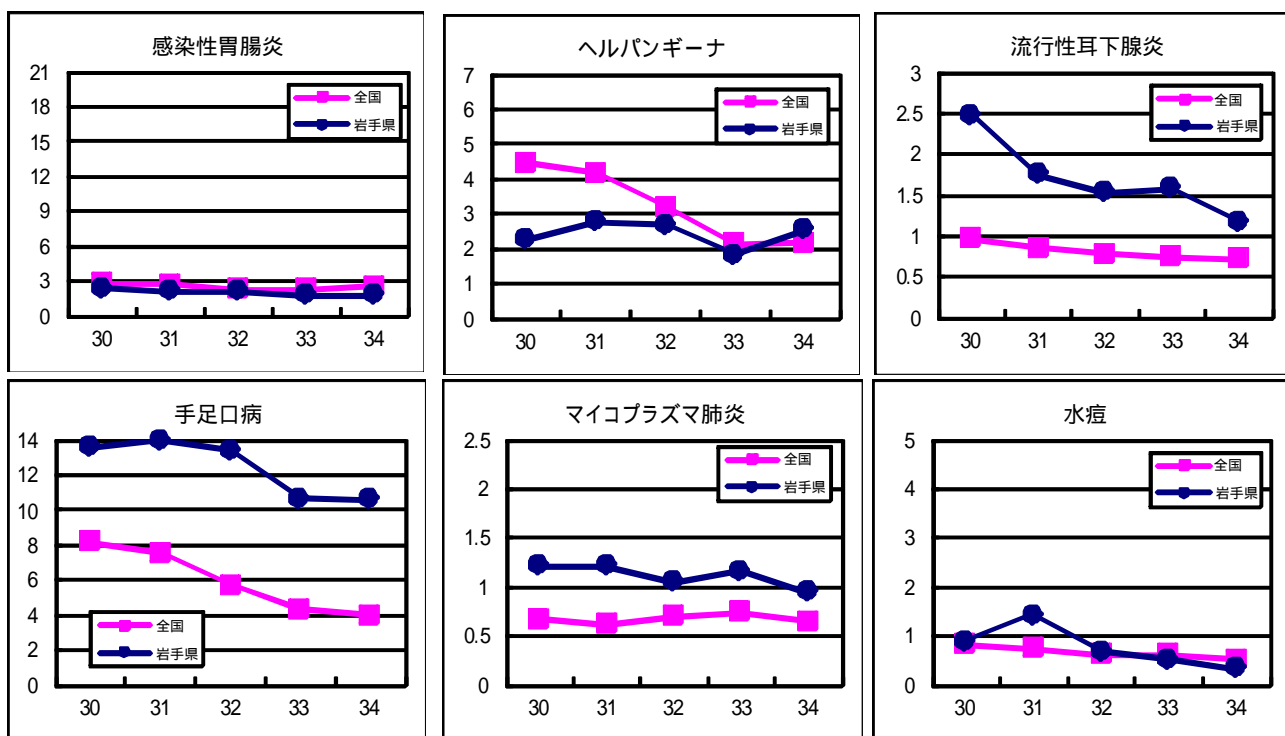
岩手県感染症情報センター

第34週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の患者の報告が1例ありました。
- 3 類感染症
 - ・腸管出血性大腸菌感染症は、16例の報告がありました。今年これまでの報告数は103例と、例年同時期より多くなっています。合併症として溶血性尿毒症症候群があり、血便出現時は早期入院治療が必要です。予防には、食品の衛生的取扱いとともに、流水と石鹸を用いた手洗いの励行が重要です。
- 4 類感染症 ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 5 類感染症（全数把握対象疾患）
 - ・麻疹の予防には、ワクチン接種が有効です。定期接種対象者（1歳児、年度内に6歳、13歳、18歳になる方）は、早めの接種を。
- 5 類感染症（定点把握対象疾患）
 - ・震災の影響で、大船渡地区の一部定点医療機関からは情報が入っていません。
 - ・手足口病は、定点あたり患者数が8週連続で警報値（5人）を超えました。地区別では、宮古地区が28.67人と多くなっています。本疾患は、通常数日で回復しますが、まれに髄膜炎になることがあるため、頭痛、嘔吐を併発した場合は、早期の受診が必要です。
 - ・ヘルパンギーナは、県央地区で警報値（6人）を超えました。

最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

（疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意）



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向	
		30	31	32	33	34		
インフルエンザ	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01		
RSウイルス感染症	岩手県	0.1	0.1	0.03	0.15	0.1	→	
	全国	0.22	0.26	0.28	0.28	0.29		
咽頭結膜熱	岩手県	0.2	0.05	0.05	0.15	0.08	→	
	全国	0.63	0.52	0.45	0.38	0.36		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	0.33	0.48	0.5	0.33	0.53	→	
	全国	0.85	0.74	0.59	0.5	0.6		
感染性胃腸炎	岩手県	2.38	2.13	2.08	1.73	1.78	→	
	全国	2.8	2.74	2.24	2.25	2.58		
水痘	岩手県	0.9	1.43	0.68	0.53	0.33	↘	
	全国	0.82	0.75	0.62	0.62	0.52		
手足口病	岩手県	13.58	14	13.4	10.65	10.6	→	
	全国	8.19	7.56	5.7	4.33	3.98		
伝染性紅斑	岩手県	0.2	0.25	0.28	0.28	0.03	→	
	全国	0.61	0.61	0.44	0.33	0.4		
突発性発疹	岩手県	0.58	0.48	0.38	0.58	0.55	→	
	全国	0.67	0.68	0.6	0.57	0.73		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03		
ヘルパンギーナ	岩手県	2.25	2.78	2.68	1.83	2.53	↗	
	全国	4.45	4.17	3.21	2.13	2.17		
流行性耳下腺炎	岩手県	2.48	1.75	1.53	1.58	1.18	↘	
	全国	0.96	0.86	0.78	0.74	0.72		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.41	0.27	0.27	0.22	0.23		
流行性角結膜炎	岩手県	0.21	0.21	0.36	0.64	0.21	→	
	全国	0.78	0.68	0.65	0.76	0.73		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0.05	→	
	全国	0.08	0.05	0.05	0.1	0.08		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	1.21	1.21	1.05	1.16	0.95	→	
	全国	0.67	0.62	0.7	0.74	0.65		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.03	0.04	0.02	0.03		

【流行傾向の見方】

- 無印：ほとんど患者が発生していません
- ：患者が発生しています
- ：警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患（過去5週の動き）

（患者発生数）

	疾病名	岩手県					全国	
		(週)	30	31	32	33	34	累計
一類 感染症	エボラ出血熱		0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱		0	0	0	0	0	0
	痘そう		0	0	0	0	0	0
	南米出血熱		0	0	0	0	0	0
	ペスト		0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病		0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱		0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎		0	0	0	0	0	1
	結核		5	4	14	7	1	121
	ジフテリア		0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群		0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（H5N1）		0	0	0	0	0	0
三類	コレラ		0	0	0	0	0	1
	細菌性赤痢		0	0	0	0	0	25
	腸管出血性大腸菌感染症		15	14	20	7	16	103
	腸チフス		0	0	0	0	0	0
	パラチフス		0	0	0	0	0	0
四類 感染症	E型肝炎		0	0	0	0	0	0
	ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）		0	0	0	0	0	0
	A型肝炎		0	0	0	0	0	3
	エキノコックス症		0	0	0	0	0	0
	黄熱		0	0	0	0	0	0
	オウム病		0	0	0	0	0	0
	オムスク出血熱		0	0	0	0	0	0
	回歸熱		0	0	0	0	0	0
	キャサヌル森林病		0	0	0	0	0	0
	Q熱		0	0	0	0	0	0
	狂犬病		0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症		0	0	0	0	0	0
	サル痘		0	0	0	0	0	0
	腎症候性出血熱		0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎		0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎		0	0	0	0	0	0
	炭疽		0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱		0	0	0	0	0	0
	つつが虫病		0	0	0	0	0	8
	デング熱		1	0	0	0	0	1
	東部ウマ脳炎		0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（H5N1を除く）		0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症		0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱		0	0	0	0	0	6
	日本脳炎		0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群		0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病		0	0	0	0	0	0
	鼻疽		0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症		0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎		0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症		0	0	0	0	0	0
	発疹チフス		0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症		0	0	0	0	0	0
	マラリア		0	0	0	0	0	1
	野兔病		0	0	0	0	0	0
	ライム病		0	0	0	0	0	0
	リッサウイルス感染症		0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱		0	0	0	0	0	0
	類鼻疽		0	0	0	0	0	1
	レジオネラ症		0	0	0	0	0	8
	レプトスピラ症		0	0	0	0	0	0
	ロッキー山紅斑熱		0	0	0	0	0	0

全数把握対象疾患（続き）（過去5週の動き）

（患者発生数）

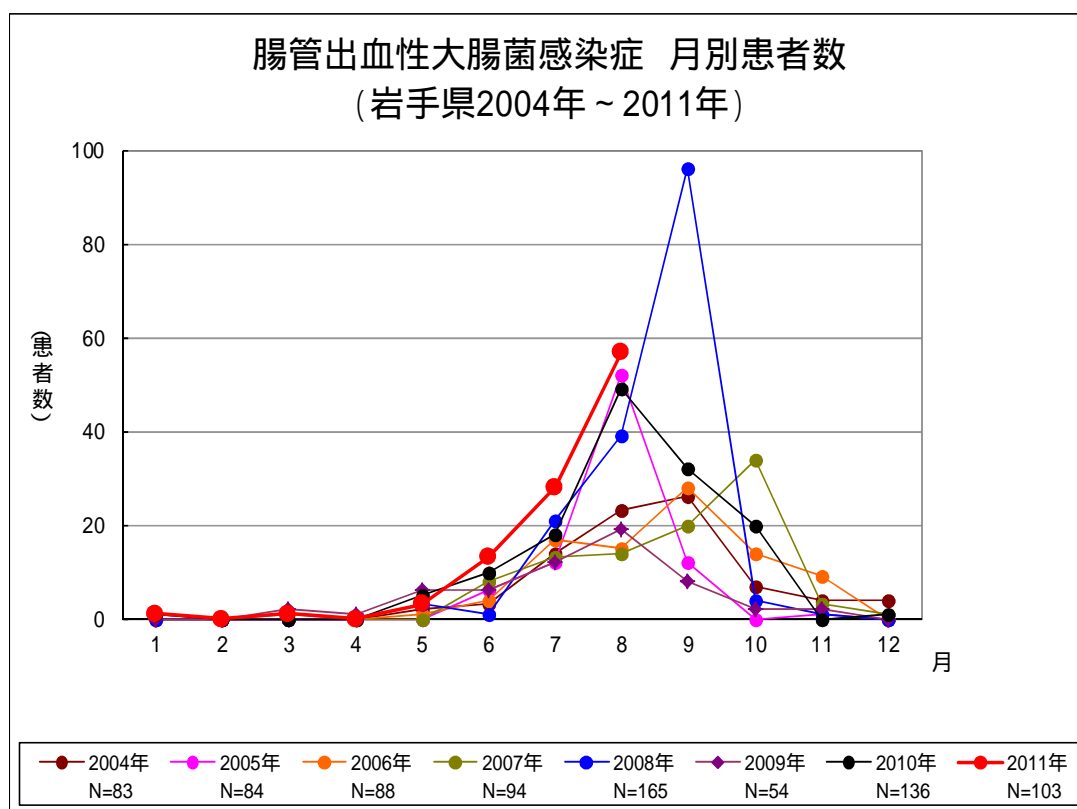
分類	疾病名	（週）					岩手県		全国	
		30	31	32	33	34	累計	34	累計	
五類感染症	アメーバ赤痢	1	0	0	0	0	7	11	512	
	ウイルス性肝炎（A型肝炎及びE型肝炎を除く）	0	0	0	0	0	0	2	168	
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く）	0	0	0	0	0	2	0	193	
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	6	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	1	80	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	149	
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	17	927	
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	44	
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	7	
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	1	
	梅毒	0	0	0	0	0	0	9	491	
	破傷風	0	0	0	0	0	2	1	74	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	37	
	風しん	0	0	0	0	0	1	5	304	
	麻しん	0	0	0	1	0	2	2	387	

今注目の感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、第34週には16例の報告がありました。本年はこれまでに計103例が報告されており、例年同時期と比較して多い報告数となっています。性別では男性が53例、女性が50例であり、年齢層別では0～9歳が56例、10～19歳が4例、20～29歳が13例、30～39歳が8例、40～49歳が4例、50～59歳が9例、60歳以上が9例となっています。分離された大腸菌の血清群別では、O157が22例、O26が66例、O111が3例、O121が2例、O103が8例となっています。

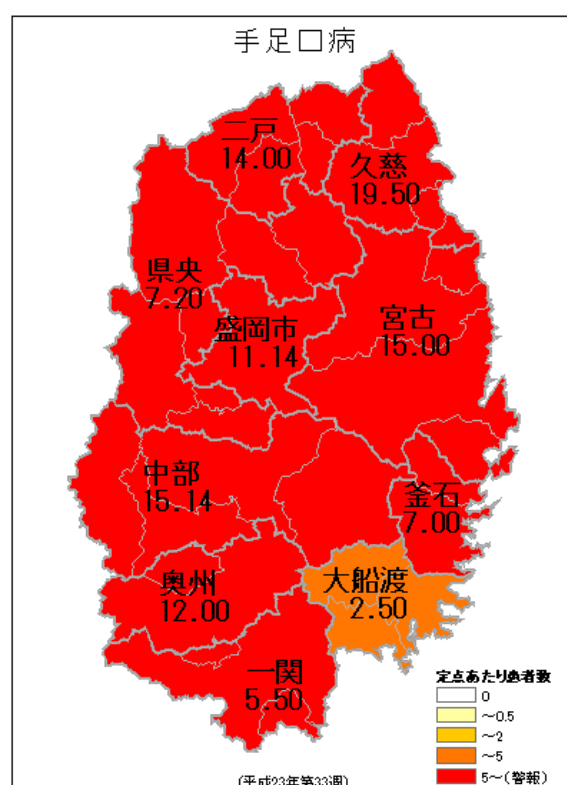
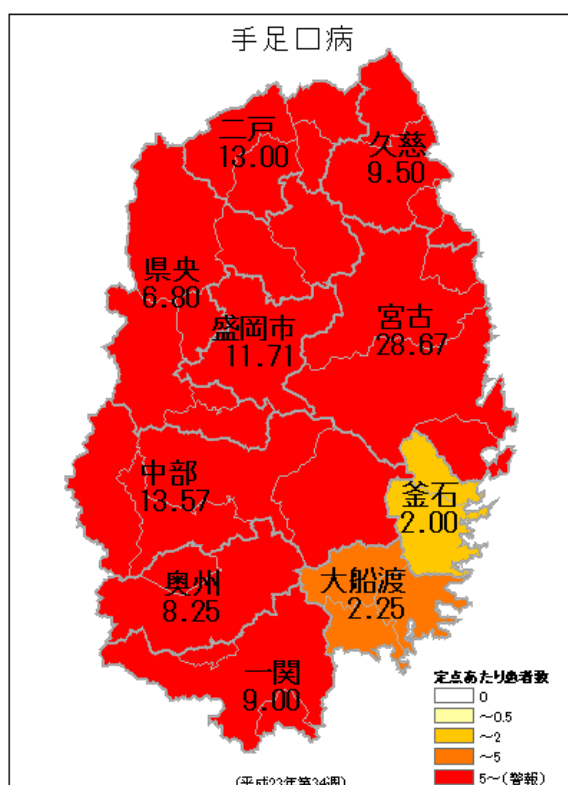
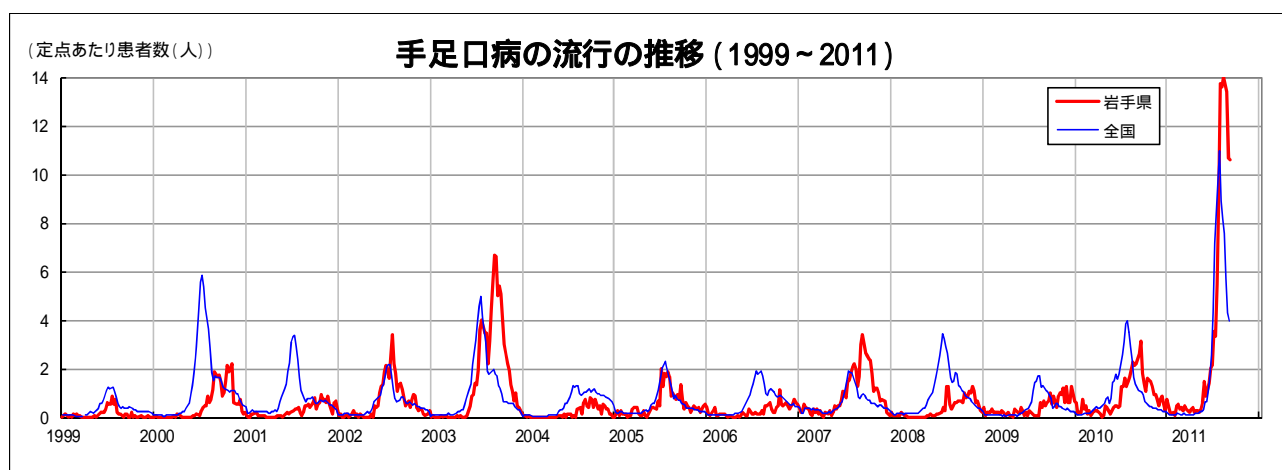
毎年、夏季に患者の報告が多いので、食品の保存などの取り扱いには充分注意して食中毒対策を徹底するとともに、二次感染を予防するために手洗いの励行が重要です。



今注目の感染症（つづき）

手足口病

手足口病は、乳幼児を中心に夏期に流行するウイルス性感染症で、主な症状は、口腔粘膜、手、足などに現れる水疱性の発疹です。通常、数日で回復しますが、まれに髄膜炎を起こすことがあるので頭痛、嘔吐を併発した場合は、早期の受診が必要です。本年は全国的に患者報告数が多くなっており、本県でもほぼ全域に渡って流行がみられています。第34週の定点あたり患者数は10.6人と警報値（5人）を大きく超えています。地区別では、宮古地区で28.67人と多くなっています。



手足口病、定点あたり患者数、地区別、左：第34週、右：第33週

病原体検出情報

- ・手足口病の患者の咽頭ぬぐい液から、A群コクサッキーウイルス16型を3件分離しました（うち1件は週報第33週に掲載済のライノウイルスを検出した患者の検体より分離）。
- ・咽頭炎の患者の咽頭ぬぐい液から、A群コクサッキーウイルス16型を1件分離しました。

集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

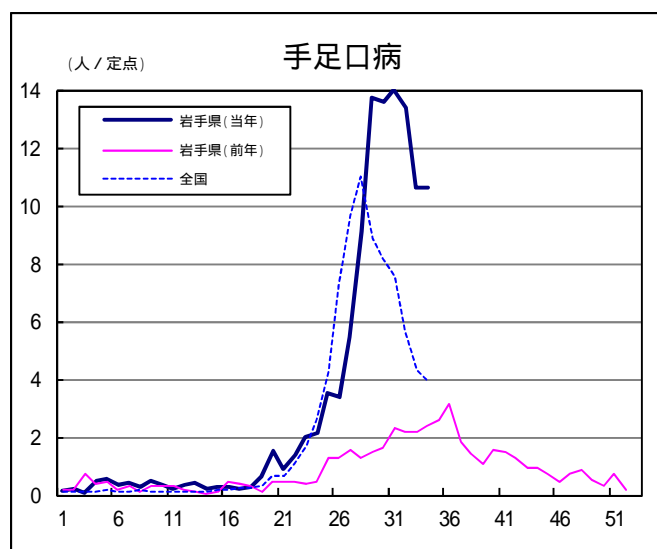
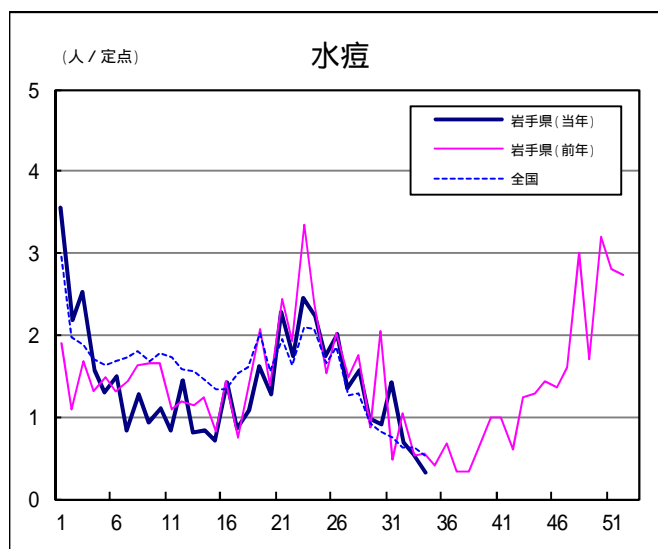
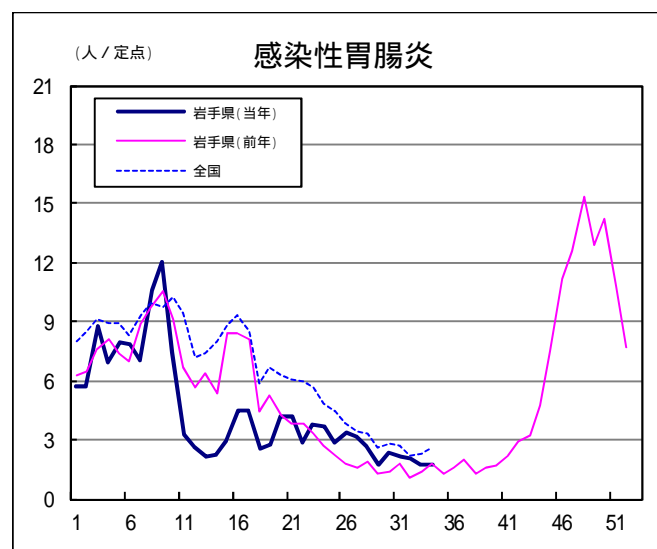
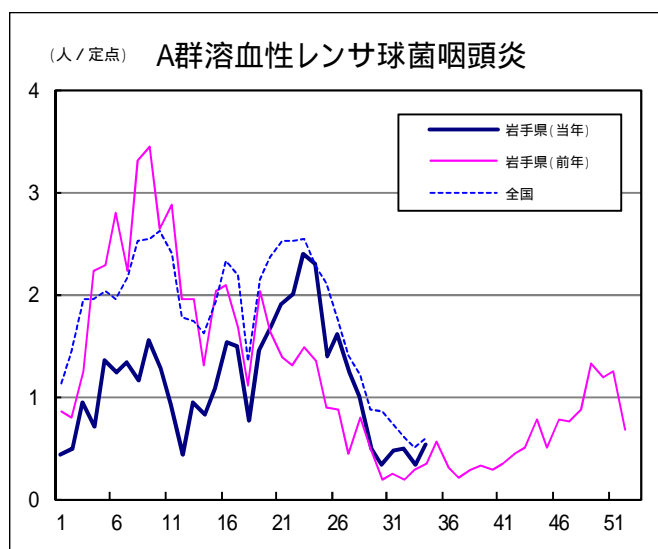
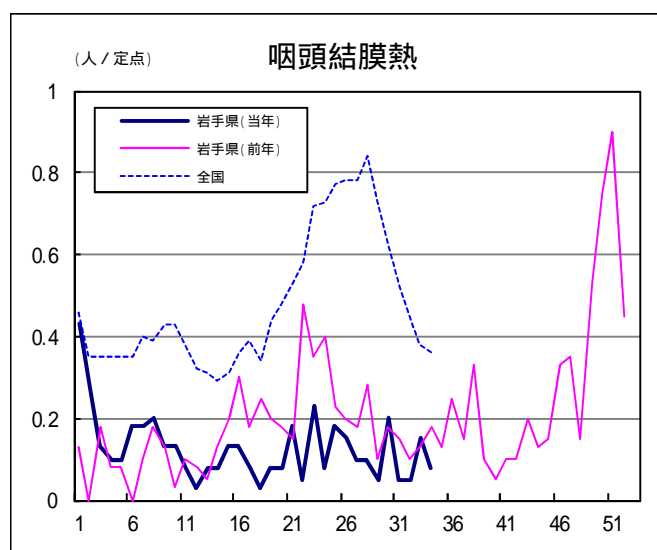
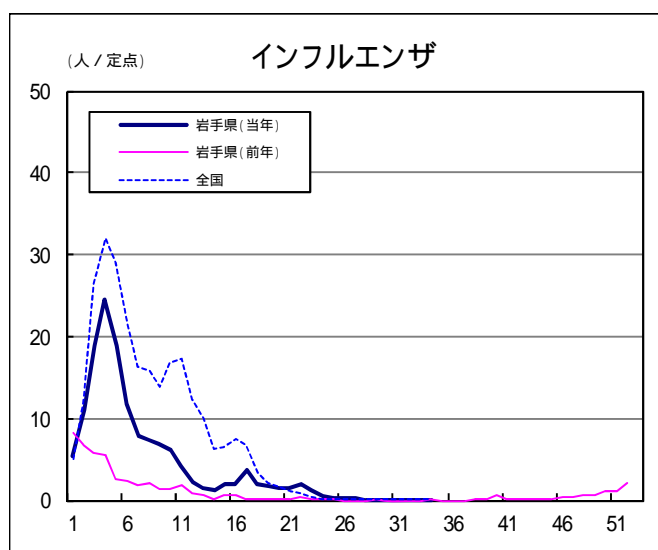
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

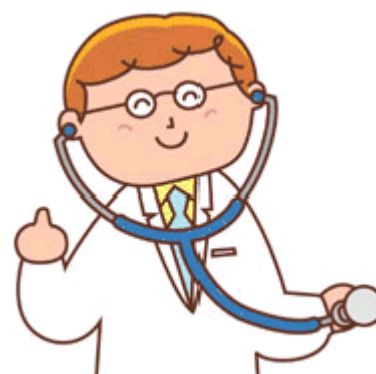
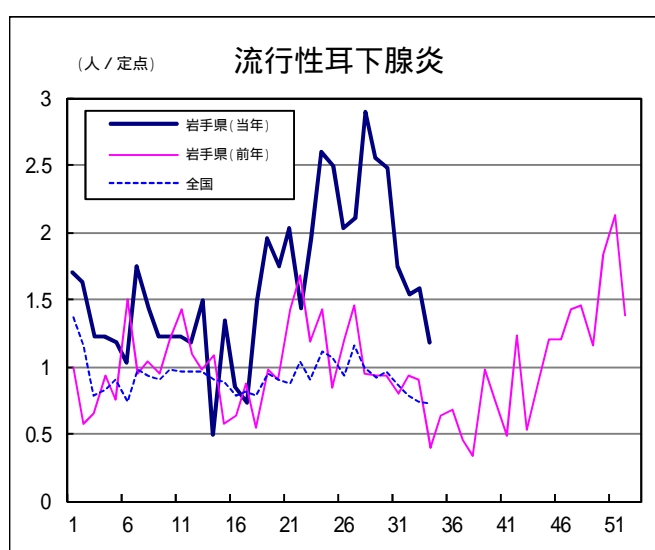
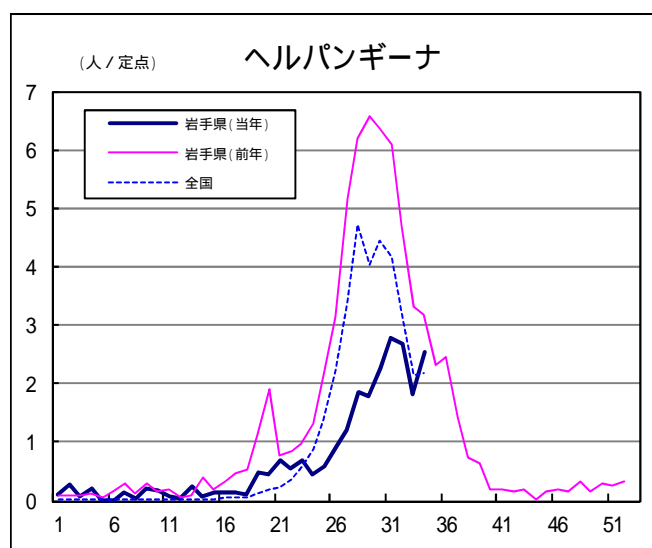
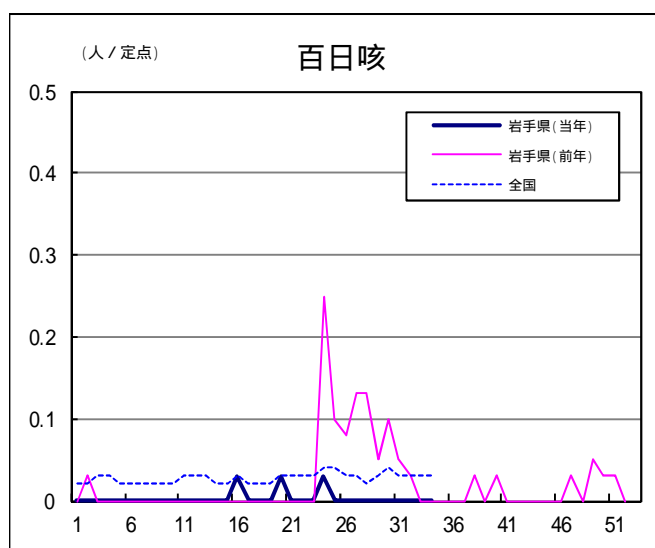
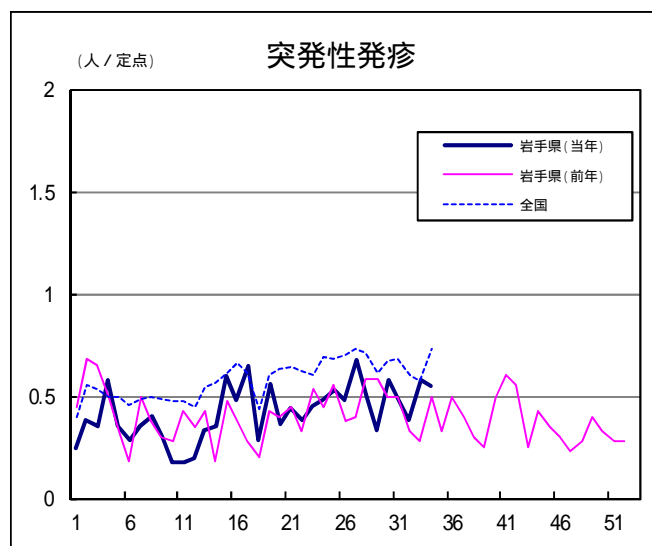
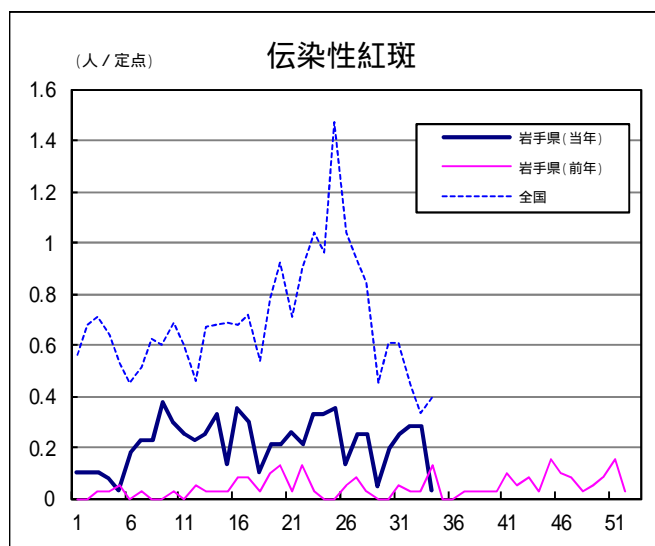
Q & A

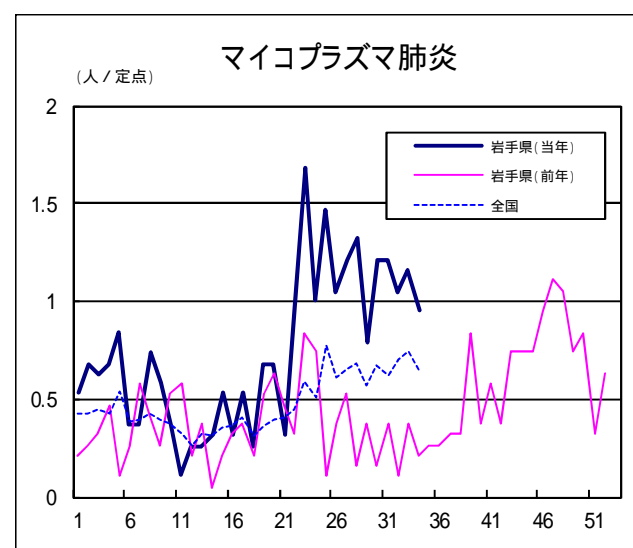
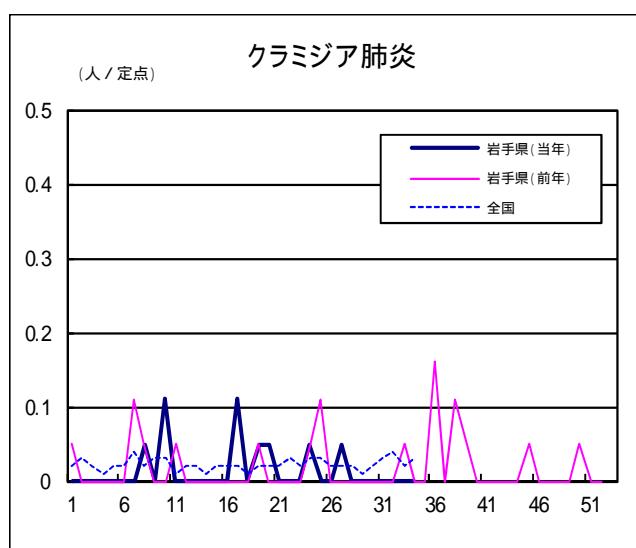
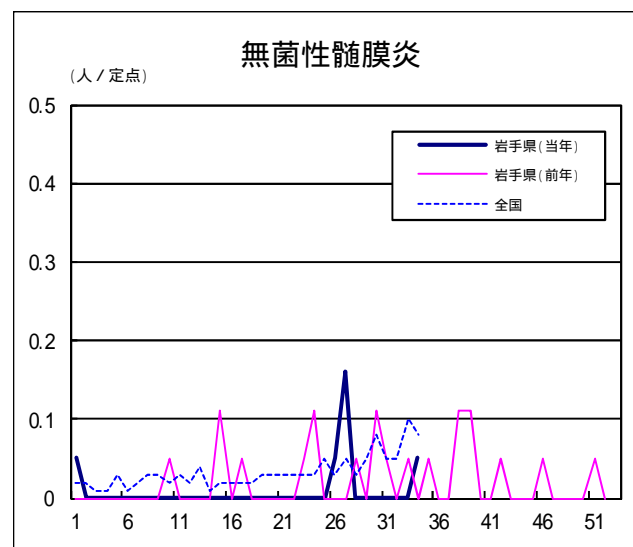
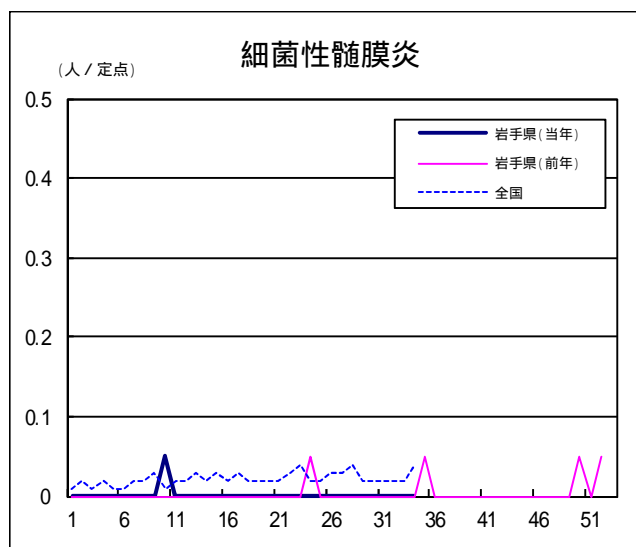
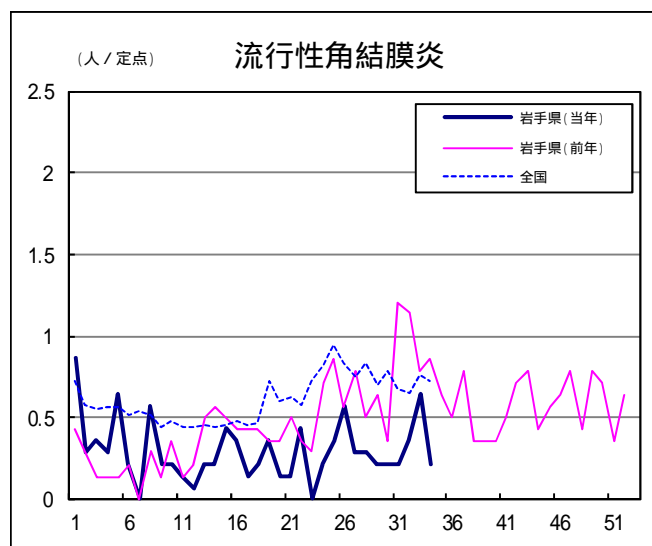
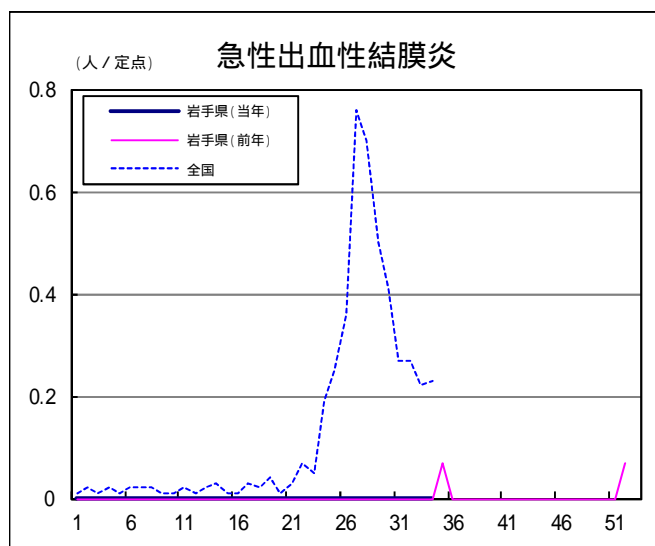
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1-36-1
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ（定点あたり患者数の推移）







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	64	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	7	5	2	0
花巻	7	4	1	2
北上	5	3	1	2
水沢	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2

無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成23年第34週 平成23年9月2日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター

岩手県保健福祉部医療推進課

事務局：岩手県感染症情報センター

（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田1-36-1

TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail：CC0019@pref.iwate.jp

URL：http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/

<岩手県感染症情報センター>

http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=345&ik=3&pnp=17&pnp=60&pnp=345

<岩手県保健福祉部医療推進課>